

震災を体験した住民が取り組んだ、まちづくりの一つの方法

戸田真由美*1

- 「御菅カルタ」づくりの実践報告 -

キーワード：震災復興・地域カルタ・まちづくりNPO・住民支援・住民参加



写真1 御菅住民と関係者やボランティアたち、総勢133人で作った御菅カルタ

1. はじめに

筆者が所属する、阪神・淡路大震災まち支援グループまち・コミュニケーション(以下、まち・コミ)は、兵庫県神戸市長田区御蔵通5・6・7丁目のまちづくり支援をするボランティアグループです。震災直後、関東から駆けつけたボランティアが支援活動を続けていく中で、95年10月から御蔵通5・6丁目まちづくり協議会の事務作業を手伝い始め、96年1月には御蔵地区合同慰霊法要の準備や連絡調整を行いました。ボランティアらは「まちに住民が戻ること」の必要性を感じ、96年4月にまち・コミを設立。現在、メンバーのほとんどは入れ替わっていますが、継続してまちの支援をしています。

平成15年度まち・コミは、事業の一つとして筆者が企画した「地域カルタづくり」に取り組みました。御蔵通5・6・7丁目の自治会員と周辺住民、ボランティアによる「カルタ部会」を結成してのカルタプロジェクト。本稿では、カルタ部会メンバーを中心とした活動の様子を、筆者の視点から報告します。

2. 地域カルタづくりのきっかけ

御菅の地域カルタづくりは、筆者が企画書を作成するところから始まりました。生活復興県民ネットの助成金

「まちの再発見運動」を利用して、地域の魅力を住民が見つけ直し、まちを活気づけるきっかけをと思い、過去の他地区の事例を参考にして考えたところ、「地域カルタづくり」をやってみたくて思いました。多くのひとがほんの少しずつ関わって一つの「遊び道具」をつくること。これはきっとおもしろい。

御菅のまちは、震災で全壊や全焼を含む、甚大な被害を受けました。御蔵通5・6丁目と御蔵通菅原通3・4丁目地区は、区画整理地区に指定され、震災前と比べると町並みがすっかり変わりました。震災前から御菅で暮らしている住民も、震災前の自分の家がどこにあったのかわからなくなるほどです。現在の住民は、震災前から御菅で暮らすひと、震災がきっかけで御菅で暮らすことになったひと、震災とは関係なくこの町で暮らすことを選んだひと、働いたりボランティアで来ているひと、震災後に生まれた子どもたち、いろいろなひとがいます。もちろん、御菅のまちへの思いは人それぞれ。今の住民や関係者が、御菅に対してどのように思っているのか、震災に対してどんな気持ちでいるのか、カルタづくりを通して筆者自身を知りたいと思いました。そしてできあがったカルタを使ってみんなで遊ぶことで、地域の魅力や震災に対する思いを共有し、見つけ直せると同時に、老

若男女の交流の場ができるはず。

住民やボランティアなどの関係者を含め、大勢が一つのカルタづくりに関わる企画内容を考えました。まち・コミが活動している御蔵通5・6・7丁目の現在の人口は約300世帯。小さなまちですが、御蔵通の3・4丁目やすぐ南の菅原通も含めるとカルタの内容にも幅ができ、より多くのひとに関わってもらえるのではないかと思い、カルタのテーマは「御菅のまち」としました。地域のネットワークをめいっぱい利用するため、カルタづくりの企画を御蔵通5・6・7丁目自治会（柴本宏幸会長）に持ちかけ、協働団体として御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会（田中保三会長）におねがいしました。まち・コミからは、筆者を含む3人が事務局スタッフとしてカルタづくりに関わりました。

3. カルタづくりの流れ

3-1 カルタ集め

平成15年7月中旬から、参考資料として地域カルタ集めを始めました。探してみるといろいろあるもので、「舞子カルタ」「平野カルタ」「野鳥カルタ」「あかおカルタ」「識字カルタ」などを実際に手に入れました。句を自筆のまま印刷しているもの、英訳がついているもの、読み札の裏に解説があるもの、絵札が写真のものや子ども達が描いたもの、一枚の大きな紙に全ての句と絵が印刷されているものなど、同じ地域カルタでもいろんな形があることを知りました。中でも「舞子カルタ」は同じ神戸市内だということもあり、筆者は作成をされた株式会社環境緑地設計研究所の辻信一氏を訪ね、1時間程度カルタづくりを指導していただきました。舞子カルタをどのようにして作ったのか教えていただき、資料をいただいたり、カルタづくりの注意点などのアドバイスをいただきました。筆者はこのときに、御菅のカルタづくりのスケジュールとイメージがはっきりすると同時に、作業の多さと筆者自身の構想の甘さに気づき、先を不安に思ったことを覚えています。

3-2 カルタ部会の結成

実際のカルタづくりは平成15年8月から開始しました。すでに地域内では、まちの役員が集まる会議の場があったのですが、地域カルタづくりには相談事項が多いため、カルタのみの相談をする場を別に設けることにしました。そしてメンバーは地域内の住民に限らず、広く呼びかけることにしました。こうして御蔵通5・6・7丁目の「カルタ部会」ができました。最初の会議は9人でしたが途中も徐々にメンバーが増え、最終的には27人になりました。会議は夜7時から行ったため、会議には参加できないけれども陰で協力してくださった方も中にはおられます。メンバーの年齢は、20代から70代まで、多くは50~60代の女性です。カルタづくりから大

会の開催まで、12回の会議を行いました。



写真3-1 カルタ部会会議の様子

3-3 作成者集め

御蔵通5・6・7丁目では震災後、「自分たちでできることは、自分たちの手で」をモットーに、まちづくりを進めてきました。新しくできる公園の芝張りや震災慰霊碑のコンクリート打ちなども、住民が関わってやってきました。集会所づくりも住民やボランティアが、棟梁や親方の手伝いをしました。

こんなまちですから、カルタづくりにもできるだけ多くの方に参加していただくため、カルタづくりの目標を思い切って「一人一作品」としました。句と絵は別です。いろはカルタですから読み札48枚、絵札も48枚、箱の絵1枚で、トータル97人の作成者を集めなければなりません。かなり高いハードルですが、実現するとおもしろいカルタができる。それを信じて、作成者集めを始めました。

句の作成者の方には3句以上おねがいし、その中から必ず1句はカルタにすることをお約束しました。複数詠んでいただかないと、お題が重なる可能性があるからです。そしてせっかく句を寄せてくださったのですから、全員分をカルタにしたいという思いがありました。

まず作成者募集のチラシを1500枚作り、御菅と近隣地区にポスティングしました。地域内のお店には、ポスターを貼ってもらいました。ところが作成に意欲を見せてくださったのは、日頃のまちの活動にも参加している、筆者も知っているひとばかり、10名でした。その10名にはカルタ部会のメンバーも含まれています。これではいけないと思い、部会メンバーは口コミ作戦を始めました。ご近所さんやご家族、お友達など、「御菅のまち」をテーマに句を読める方、句に合った絵を描ける方を探していきました。

部会メンバーの積極的な呼びかけのおかげで、どんどん作成者が増え、あっという間に句の作成者は50人を超えました。そうすると、もう一つの問題が起ってきます。読み札の枚数を超えてしまったわけですから、一

人一句は必ずカルタにするという約束を守ると、同じ文字から始まる読み札が複数出てくるのです。超えた分をどうするかカルタ部会で悩みましたが、募集締め切り日まで引き続き受け付け、読み札の初めの文字が重なってもいいことにしました。こういったカルタづくりは、いわゆる「いい句」を厳選した方が完成度は高くなりますが、まちづくりの中で行っていますので、カルタづくりに参加してみようという気持ちを優先しました。

3 - 4 読み札づくりから決定まで

カルタ読み札 最終決定 (計65句)			
50音	お題	人	読み札
あ	味彩館	47	味彩館 買物して 日傘忘るる
あ	座禅	23	足を組み息を調のえ身を正し 思いのままに只坐るのみ
い	かるも川	58	いにしへの 御菅酒す 苧蓑川
い	まち	8	運あらば 御菅の地区に 遺跡かな
う	プラザ5	15	絵手紙とパソコンで 友達増えるプラザ5
う	人	18	「お久しぶり」 出会う知人(ひと)も 遠くなり
お	もちつき	50	おもちゃつき ベックンベックン 楽しいな
か	震災	51	語り継ぐあの日のことを きれいになったこのまちで
か	盆踊り	33	河内音頭 恒例になって楽しむ盆踊り
か	まち	45	北公園に咲かせたい まぼろしのみくらさく
さ	公園	28	くるとつるるスベリ台 楽しかったなへビ公園
こ	プラザ5	52	敬老の日 今年も赤飯 ありがとう
こ	公園	35	子ども達 笑顔で遊ぶ 南公園
こ	人	38	この街で 生きていくんだ 木庵(むくげ)のように
さ	桜橋	41	桜橋 渡るあなたの手をかりて ふれあい喫茶室しみに
さ	人	3	ささえあう この町が好き 昭和一ケタ 生きてゆく
し	今	36	震災後 すっかり変わった 御菅の街並
し	タイガース	54	震災後聞く耳持てない状況が いつの間にか阪神応援
し	長田神社	55	下町を みこしが元気に おり歩く
じ	お地藏さん	21	地藏さん まちの安全 守ってね
じ	地藏盆	19	地藏盆 昔も今も かわらない
し	集会所	7	集会所 古民家移築に 人夢紡ぐ
す	震災	10	住み馴れた 御菅の町も 焼け野原
せ	路地	26	狭い路地 楽しかったね 井戸端会議
そ	まち	25	そこかしこ 釘煮のにおい 御菅の春
そ	ボランティア	9	頼もしいや 若いも若さも ボランティア
ち	味彩館	6	チラシ見て 母さん買ひ物 味彩館
ち	人	49	常日頃 この子 どの子 あそこの子
つ	まち	46	天に鳥(からす) 地には猫 住みよいのかな 彼らにも
で	電柱	1	電柱 震災の痛み 忘れずに
と	空き地	14	年月(と)きはすき 忘れられたか 空き地の一花
な	人	40	なつかしい 友のかお見て 時の流れを
な	プラザ5	2	日曜日 絵手紙教室 めいんだ
ぬ	集会所	59	ぬかぶくろ みんなで磨こう 古民家を
ね	復興	63	根なし草 今は御蔵の 復興住宅
の	カルタ	62	残したい 御菅のカルタ 後の世に
の	集会所	48	原屋に 命ふさ込む 御蔵ひと
は	花電車	29	花電車 今もむかしも 思い出ひとつ
は	松本トーフ店	42	はじめのおつかいは 松本豆腐店
ば	まち	56	晩ごはん となりのおかず まるわかり
ば	プラザ5	24	パソコンの マウス自在に ニクセル挑戦
ひ	絆・和	53	人の輪の 美しさ哉 御菅まち
ふ	信仰	13	福たぬき 御菅の町にも おりてきて
へ	今昔	39	平和とゴム 今はわかりし フェニックス
ほ	盆踊り	31	盆踊り 地域の人と 輪をつくる
ま	絆・和	43	町変わり 人情変わらぬ 御菅人
ま	まちづくり	22	町づくり 苦勞の後に 光さす
み	水仙公園	17	宮城の心のもった花束の 思い出残る水仙公園
み	プラザ5	30	ミニデイに 通う程に 若くなり
み	ボランティア	27	御蔵の町 手をさしのべたる 若者に感謝
み	みくら5	37	みくら5は たのしいファイブ
む	お地藏さん	34	むかしはな たくさんあったよ 地藏さん
む	路地	4	昔なつかし路地裏は うちわ片手のへばり棋
め	復興	46	目に見える 復興のみを メディア追う
も	慰霊碑	16	モニュメントに 衣山の人眠ってる 北公園
も	御蔵焼き	20	焼けた大地から よみがえる土 御蔵焼
や	ろうそく法要	44	焼けた火が 今は慰霊の ろうそくに
ゆ	震災	12	夕暮れに輝く 一條焼け跡に 家族の影か手を合す人
よ	七夕	11	よい街に なれと祈る 星祭
ら	震災	60	ラムネ瓶 真つ赤に燃えて オブジェと化す
り	自治会	7	理屈ぬき 不言実行 自治組織
る	震災	5	傾倒とめて 尚生き残る 橋の太木
れ	慰霊祭	61	連絡があれば行きたい慰霊祭 親しい人にも会いたいし
ろ	路地	57	路地裏の せんたく物は 万国旗
わ	1.17	32	忘れない 忘れてはいけない 一・一七

表3 決定した読み札の一覧

読み札づくりには、日頃のまちの活動には仕事や家庭の都合で参加がむずかしいひと、部会メンバーの呼びかけに応じて気軽に参加してくださいました。また、震災前からこの町に住んでいるわけではないからと参加を遠慮しておられた住民もおられました。御菅カルタは「今御菅に住んでいるひとや関わっている、気にかけているひとたちの思いを集めたものにしたい」という話をすると、快く参加してくださいました。

9月半ばには、58組61人(注1)から、298もの句

が集まりました。今度は句の選定作業です。最初は事務局案として、筆者とスタッフで58句を選びました。一人一句を選ぶことと、御菅のまちの紹介として必要なものは必ず入れること、お題がかたよらないことなどを考慮しながら選びました。二人だけで選んだにもかかわらず、5時間を超える作業になりました。

次はカルタ部会の会議で事務局案を元にした決定作業。会議には読み札の作者全員に会議への参加を呼びかけ、句の決定作業から完成まで関わっていただくことにしました。句の決定会議は約2時間を4回行ってやっと終了。句から読みとれる作者の強い思いと、いろいろなお題を入れたいという部会の思いの狭間で、部会メンバーは随分悩みました。句の決定作業中も句が増えたため、最終的には63組133人の315句が集まり、65句をカルタに印刷することに決めました。読み札作成者は小学校4年生から88歳まで。いろいろな人のいろいろな思いが集まりました。

3 - 5 絵札づくり、絵札集め

句が決まると、今度は絵札を作成希望者に依頼しました。読み札作成者は御菅住民がほとんどですが、絵札はボランティアや支援者などにも広く呼びかけました。近所の子ども達に熱心に声をかけてくださった方もおられました。関東から熊本まで、箱の絵を含めて66名が、句の時は違っても短時間で集まりました。もし66名集まらなければ、市内の芸術大学の学生さんなどにおねがいすることも考えていたのですが、杞憂だったようです。絵札作成者の最年少は小学校1年生、最年長は70代で、住んでいる場所や御菅のまちとの関わり方も様々です。句の作者のご家族にも声をかけていただき、おばあちゃんとお孫さん、夫婦、親子のペアで読み札と絵札を作ったという例もあります。趣味でイラストを描いたりされている方もおられますが、ほとんどは絵心が自慢の素人です。どの句の絵をどなたに描いていただくか、筆者の独断で決めていきました。どの方に絵をおねがいするかによって、できあがる作品が違ってくるわけですから責任重大ですが、絵の作者の年齢や震災体験の有る無し、御菅との関わり方を考えて決めていきました。

絵の作者には、句の思いを伝えはしましたが、どんな絵にするかは作者に任せました。句を伝えたとたん悩みに始め、絵札作成を引き受けるんじゃないかと後悔された方はかなりおられたようです。句に込められた思いを絵で表現することがどれほど難しいか、絵札作成者は実感しながら、精一杯の絵を描いてくださいました。絵の作成者には用紙のサイズはA4で縦、立体でなければどんな手法でもかまわないと伝えていました。色鉛筆や水彩画、マジック、切り絵、ちぎり絵、貼り絵、コンピュータグラフィックなど、思いもよらぬ力作が集まりました。事務局では、絵が届く度にその場にいた人たちが

群がり、歓声があがりました。

震災を詠んだ句がいくつかありますが、地域住民にとってつらい思い出のため、どの方に絵をおねがいするが悩みました。そのうちの一句は思い切って、他の町のまちづくりに震災前から取り組んでおられる方におねがいしてみました。どんな作品になるか気になっていたのですが、作品をいただいた後「この句の絵を描かせてくれてありがとう」という言葉をいただきました。句を詠むこと、絵を描くことが、まちや震災を見つめ直すいい機会になったようです。



写真3-2 集まった絵札の一部

3-6 印刷，箱詰め作業

句と絵がそろえば、次はレイアウトと印刷。まち・コミスタッフがパソコンでレイアウトし、データを印刷屋さんへ渡しました。カルタの箱は、長田の産業であるケミカルシューズの箱を作っている会社に依頼し、カルタの企画を説明すると、快く引き受けてくださいました。

800セットを注文（贈呈用500セット，販売用300セット）し、カルタと箱，箱のシールが揃ったのは12月初旬。12月8日から10日までの3日間，カルタ部会を中心とした協力者で，箱詰め作業を行いました。作業時間は午前10時から12時までと午後1時から3時までとしました。カルタ部会メンバーの中には、日中お仕事をされていて箱詰めに参加できない方ももちろんおられます。けれども、代わりにご家族に声をかけてくださったり、お仕事を休んでまで来てくださったり、作業時間として

は設定していなかった夜に来てくださる方もおられました。

カルタの箱詰めは、箱の組立，箱のシール貼り，そしてカルタの納品は同じ札が束になっているため，一札ずつ集めて帯を付ける作業，カルタと手紙類（カルタを手にした方へのメッセージ，カルタの札と作成者の一覧，制作の様子を伝える冊子）を箱に入れふたを閉めるという工程です。せっかく近所の方が集まる機会なので，おしゃべりでもしながら楽しく思っていたのですが，800セットの多さと間違えないようにという思いからか，だんだん無言で必死の作業になってきました。単純作業なので気楽に考えていたのですが，どの作業も体の動きが一定なので負担がかかってきて，作業が終了したときには，完成した喜びとやっと箱詰めが終わったという喜びが一緒になっていました。「もう，戸田さんは次の企画を考えてるかもしらへんけど，こんなしんどいことさせられるんやったらもうやらへんで（しないよ）」という冗談まであるほどでした。



写真3-3 カルタ箱詰め作業のようす

3-7 カルタの配付

地域外の作成者と関係者へはまち・コミから配布しましたが，御蔵通5・6・7丁目の自治会員300世帯への全戸配布は，御蔵通5・6・7丁目自治会と同町づくり協議会の役員さんにおねがいしました。トータル20人の役員さんが，15軒程度ずつです。1セットが意外に重くポストには入りませんから，直接手渡ししなければなりません。その上カルタ部会の会議では，カルタを受け取った方には受取印をいただくことも決まっています。カルタの配付はチラシなどと違い時間と体力のいる仕事でしたが，役員さん全員が引き受けてくださいました。担当区域の方が不在のため，年末の忙しいときにも関わらず，ほとんどの役員さんはご自宅とご近所を何往復もしてくださいました。

4. 原画展，お披露目会，大会の開催

カルタづくりが終盤に近づいた頃から，原画展やカル

タ大会・カルタお披露目会の企画検討に入りました。カルタ大会の開催は、みんなでカルタ遊びをすることも住民交流の場ができ、まちの活気につながるという思いから、カルタづくりの企画の中で考えていましたが、原画展とお披露目会は、カルタづくりが進んでいき、御管カルタの全貌が明らかになる過程で、やってみたいと思った企画です。原画展と大会 お披露目会用の経費として、長田区まちづくり推進課の「長田区地域づくり活動助成金」を申し込みました。

4 - 1 原画展の開催

原画展は、御管のまちの取り組みを広く伝え、住民や関係者にはみんなで取り組んできたカルタづくりに自信をつけてもらう方法の一つとして企画しました。原画展タイトルは「喜び・怒り・哀しみ・楽しみ ～御管カルタ原画展～」。

カルタ自身を手にとされる方の大半は、作成者や協力者そして御蔵通5・6・7丁目の住民です。けれども原画展は、もっと広い範囲のひとたちに見ていただきたいという思いから、神戸市内5ヶ所で開催することを決めました。原画はA4サイズ、カルタは7センチ×9.5センチのため、カルタと原画では受ける印象が違います。ですからカルタを手にとされた人でも、原画を見るとまた違った発見があるはずで

す。年齢もさまざま、技術も人それぞれ、センスもまちまち、いろんな作品がお揃いの額に入って、なごやかな雰囲気と並んでいます。原画展の当番でギャラリーに座っていると、来場者からいろんな感想を聞くことができました。中でも多いのは、「おもしろいですね。」というご感想。筆者がおもしろいと思った企画を、来場者も同じように感じてくださったことを、うれしく思いました。



写真4 - 1 原画展のようす（新長田勤労市民センター）

4 - 2 お披露目会の開催

平成16年1月17日（土）に御蔵通5・6・7丁目では、震災の慰霊法要とろうそく法要、そして公園と集会所のオープン式典、翌18日（日）には公園と集会所を会場にした「元気まつり」という歌あり踊りありのイ

イベントが予定されました。御管カルタのお披露目会も18日のイベントの中ですることになりました。お披露目会は、公園を走り回る「BIGカルタ」。絵札をA3サイズに印刷し、ダンボールで補強して大きなカルタをつくりました。そして賞品がないかわりに、取ったカルタを記念に持って帰っていただくことにしました。参加者は、たくさん取ることを目標にがんばったり、欲しい札を持って帰るためにその句が詠まれるのを目の前で待っていたり、いろんな楽しみ方をしていました。3歳の女の子が、どうしても取りたい札が他の人に取られてしまい、大泣きするほほえましい場面もありました。大人までもがうれしそうに取った札を周りの人に見せている光景が、印象的でした。他のイベントもあったおかげで、参加者は50人を超えました。



写真4 - 2 御管カルタお披露目会のようす

4 - 3 カルタ大会の開催



写真4 - 3 カルタ大会のようす

カルタ大会は、お披露目会から1週間後の1月25日（日）、午前10時から、長田南小学校体育館で行いました。小学校は御管地区から川を挟んですぐ西にある所ですが、当日小雪がちらつく寒さだったこともあり、参加者は22名。アットホームな大会になりました。表彰状と賞品を用意。賞品はカルタ部会メンバーの家にあって使わないものを集め、大会で使ったカルタも賞品にしました。1位のひとから順番に好きなものを持って帰れま

す。子どもの部で1位になった女の子は「家でも練習したい」とカルタを選んでくれました。次はもっとあたたかい時期に、地域内の集会所でやろうという意見も出ています。

5. まち・コミュニケーションの役割

まち・コミがカルタづくりの事務局としてした仕事は、会議の進行、会議のレジメや議事録の作成、資料の作成、作成者とのやりとり、外注先とのやりとりなど、多岐にわたります。筆者が特に気をつけたことは、カルタ部会メンバーに気持ち的な負担をかけないことでした。

カルタ完成までのスケジュールを第1回の会議で確認するだけでなく、模造紙に書き出し、会議の度に掲示して、全員でカルタづくり進行のイメージを共有しました。議事録は会議の翌々日までに部会メンバー全員の家にポスティングし、会議を欠席しても決定事項や進行状況がわかるように伝えました。議事録に関しては、決定事項を簡潔に、けれども読みやすい文体で書くことを意識しました。議事録を読んでいただけるか、また正確に伝わるか不安もありましたが、会議に欠席された方からも積極的な協力が得られるなど、部会メンバーの情報共有がうまくいっている手応えがありました。

筆者は企画をたて会議の進行役を務めてきましたが、カルタお披露目会や大会のときは別の予定が入り、欠席しました。他のまち・コミスタッフは写真やビデオによる記録係とお手伝いにまわり、お披露目会や大会運営のほとんどは、地域の方で役割を決めました。そして、どちらもスムーズに進行したようです。住民によるまちづくりを支援するグループの一員として、そしてカルタ企画をたてた者として、最終的に御管カルタが地域の方のものとして使ってくださっていること実感し、うれしく思いました。カルタ部会メンバーにとって、カルタづくりのしんどさよりも、できあがった喜びの方が大きかったからでしょう。カルタ部会メンバーだけでなく、作成者のみなさんには「御管のまちづくりに関わった」という認識と自信を持っていただきたいと思っています。

6. さいごに

日頃、御蔵のまちづくりにご助言くださっているまちづくりコンサルタントの宮西悠司氏から、「(筆者は)御蔵の住民に、いぶされているという自覚を持って、まちづくりに取り組んでいきなさい」とのお言葉を最近いただき、ふと気づいたことがあります。言われるまで全く気づいていなかったことを申し訳なく反省しているとこ

ろですが、筆者が御蔵に来た6年前と比べると、「ひと」に対する接し方が変わってきたように思います。

大学を卒業して間もない頃、筆者の周りにいて影響を与えてくれたのは、同級生を中心とした友達と家族、そして職場のひとでした。それが御蔵に通い始めてから、筆者の周りの人たちが一気に増えました。増えると同時に、同じ事柄でも立場によっているんな考え方があるということを知りました。

ひとと一緒に何かをすることの楽しさや悩み、つらみを、おもしろいと思えるようになってきました。その結果として、御管カルタの完成につながったのではないかと考えています。少ない人数で作った方が、簡単にいいものができたかもしれません。けれどもたくさんのひとに関わって欲しかった。御管カルタを見ていると、みんなが「今生きているんだ」ということを実感します。

筆者が御蔵のまちづくりに、素人ながらもマイペースに関わってきた形が、この御管カルタ。一人でも多くの方に手にしていただき、御蔵のまちづくりやまち・コミの活動を知っていただきたいと思っています。

「残したい 御管のカルタ 後の世に」

御管カルタに込めた、今の筆者の気持ちです。

「御管カルタ」スケジュール

カルタづくり

8/9~ チラシ&ポスターの作成 参加者募集
8/9 カルタづくりのルール決定
~9/15 読み札作成依頼・収集
~10/3 読み札決定
10/4~11/3 絵札依頼,作成
~11/15 読み札・絵札のデータ化・レイアウト
~12/5 カルタの印刷依頼
12/8・9・10 箱折り&セット作業
12/20~ カルタ配布

原画展,お披露目会,大会

11/6~ カルタ原画展,お披露目会,大会相談開始
12/18~12/23 原画展<こうべまちづくり会館>
1/15~1/24 原画展<新長田勤労市民センター>
1/18 お披露目会開催
1/25 大会開催
1/27~2/8 原画展<北野ポケット美術函>
2/10~2/27 原画展<姫路信用金庫神戸西支店>
3/4~3/31 原画展<サルビアギャラリー>

<注>

- 1) ご家族一緒に相談して句を考えてくださった方がおられるので、「組」としている



* 阪神・淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーションスタッフ。
通信紙「月刊まち・コミ」の制作をメインに、98年9月から活動を続けている。広い意味での編集に興味があり<まちづくりの現場での編集>のおもしろさに、カルタづくりを通して気づいたところ。